

予防接種法に基づいてロタウイルス感染症の個別予防接種を行います。下記の説明をよく読み、必要性や副反応を理解してから接種を受けてください。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問しましょう。

## 1 ロタウイルスによる胃腸炎

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期（0～6歳ころ）にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染してしまいます。ふつう、5歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、軽い症状ですむか、症状が出ません。しかし、乳幼児は、激しい症状が出る 경우가多く、特に初めて感染したときに症状が強く出ます。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐（おうと）、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。5歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40～50%前後はロタウイルスが原因です。ロタウイルスワクチンの接種を受けることで重症化予防にも効果があるとされています。

## 2 ロタウイルス感染症予防接種

ロタウイルスワクチンには、ロタリックスとロタテックの2種類があります。どちらのワクチンも定期接種の対象となり、2種類のワクチンの有効性は同等と考えられています。ロタウイルスワクチンは種類の異なるロタウイルスによる急性の胃腸炎の重症化予防にも効果があるため、どちらのワクチンを接種しても同様の効果があります。1回目に接種したワクチンを途中で変更することは原則できません。

## 3 副反応について

接種当日の重い副反応としてまれにアナフィラキシー症状（ワクチンへのアレルギーによる発疹、呼吸困難など）が起こる可能性があるため十分な観察を行ってください。また、接種を受けてから約1～2週間の間は、腸重積症のリスクが通常より高まるとする研究報告もあります。腸重積症は、ロタウイルスワクチンの接種に関わらず、乳幼児が患することのある疾患で、まれな病気ではありません。**腸重積症は、生後3～4か月ごろからの発症が増えてきます。ロタウイルスワクチンは早く開始し、2回目や3回目の接種も、この時期になるべく重ならないよう、早く完了させておくことが重要です。**腸の一部が隣接する腸管にはまり込み、腸の血流が悪くなることで腸の組織に障害を起こすことがあるため、速やかな治療が必要となります。ロタウイルスワクチンの接種を受けた後に腸重積症を発症する可能性もあるため、**「突然はげしく泣く」、「機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す」、「嘔吐する」、「血便ができる」、「ぐったりして顔色が悪い」などの症状が一つでもみられた場合や、いつもと様子が違うと感じた場合は、速やかに医療機関を受診させてください。**特に、初回接種後、約1～2週間は腸重積症の発症の可能性が高まるといわれていますので、お子様の体調をよく観察してあげてください。

## 4 対象者・接種方法

小平市に住所を有し、ワクチンの種類ごとに以下の接種期間にある者（ただし、定期接種となるのは令和2年8月1日以降に生まれた者が令和2年10月1日以降に受ける場合に限る）

- (1) ロタリックス 出生6週0日後から**24週0日後までに**、27日以上の間隔をおいて**2回**経口接種（毎回1.5ml）
- (2) ロタテック 出生6週0日後から**32週0日後までに**、27日以上の間隔をおいて**3回**経口接種（毎回2ml）

※安全性の観点から、**どちらも初回接種は出生14週6日後まで。** ※原則、**同一の製剤で接種を完了すること。**

## 5 接種場所

小平市予防接種指定医療機関ロタ取扱欄参照 ※医療機関へ予約をしてから接種に行ってください。

## 6 医療機関に持参するもの

母子健康手帳、医療証、ロタウイルス感染症予防接種予診票 ※住所、年齢等を確認しますので、必ず持参してください。

## 7 接種費用 無料

## 8 次の方は接種を受けないでください

- 1 明らかに発熱している方。(測定した体温が、37.5℃以上をさす。)
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方。
- 3 過去にロタウイルスワクチンを接種した際に過敏症やそれを疑う症状のあった方。
- 4 先天性消化管障害を有する方(腸重積症の発症を高める可能性があるため)。なお、手術等により治療が完了した場合は、接種を受けることができる可能性があるため、医師に御相談ください。
- 5 腸重積症にかかったことのある方(腸重積症の再発の恐れがあるため)。
- 6 重症複合型免疫不全を有する方。(免疫不全のため、生ワクチンに含まれるウイルスにより重い感染症になるおそれがあるため)。
- 7 上記にあげる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方。

## 9 次の方は接種前に医師にご相談ください

- 1 胃腸障害(活動性胃腸疾患や下痢等)、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等を有する方。
- 2 免疫不全の可能性がある場合や、免疫抑制剤やステロイドを来す治療を受けている場合、近親者に先天性免疫不全症の方がいる場合。
- 3 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた方。
- 4 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方。
- 5 出生してから現在までに医療機関の受診や入院を必要とした方。
- 6 母親が妊娠中や授乳中に免疫機能を抑制する薬(免疫抑制薬、膠原病・リウマチの治療薬など)の投与を受けた場合。
- 7 このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方。

## 10 接種前の注意

- 1 この説明書をよく読み、予防接種の必要性や副反応について、理解したうえで接種してください。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問してください。
- 2 接種前日は入浴(又はシャワー)をし、体を清潔にしましょう。
- 3 予防接種は、体調の良い日に受けてください。
- 4 予診票は医師の大切な情報源になりますので、正確に記入してください。
- 5 接種前後30分くらいは授乳等をひかえてください。

## 11 接種後の注意

- 1 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- 2 接種後2週間程度はお子さんの状態を良く観察し、**特に腸重積の症状にご注意ください**。万一、高熱やおう吐など異常な副反応がでた場合は、早めに接種医の診察を受けてください。
- 3 接種直後にミルクなどと一緒に吐き出すことがありますので、接種後30分間は授乳等は控えてください(なお、吐き出した場合も飲み直しの必要はありません)。
- 4 接種当日は、激しい運動は避けるようにしましょう。入浴は差し支えありません。
- 5 **接種後、ウイルスが便中に排泄されるため、おむつ替えの後は手洗いを十分にしましょう。**

## 12 健康被害救済制度

予防接種により、万一、健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によるものであると認定された場合には、予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度が適用されます。

問合せ：小平市健康推進課 (〒187-0043 小平市学園東町1-19-12 小平市健康センター内)

電話：042-346-3700 FAX：042-346-3705